

No. 99

2021年1月号

富山市民病院マガジン「きよら」

●題名の「きよら」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心の美しさを表し、柔らかくてやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。

●写真については、広報用にマスクを外して撮影しているものがあります。



特集

専門医と高精度装置で より安心な放射線治療を

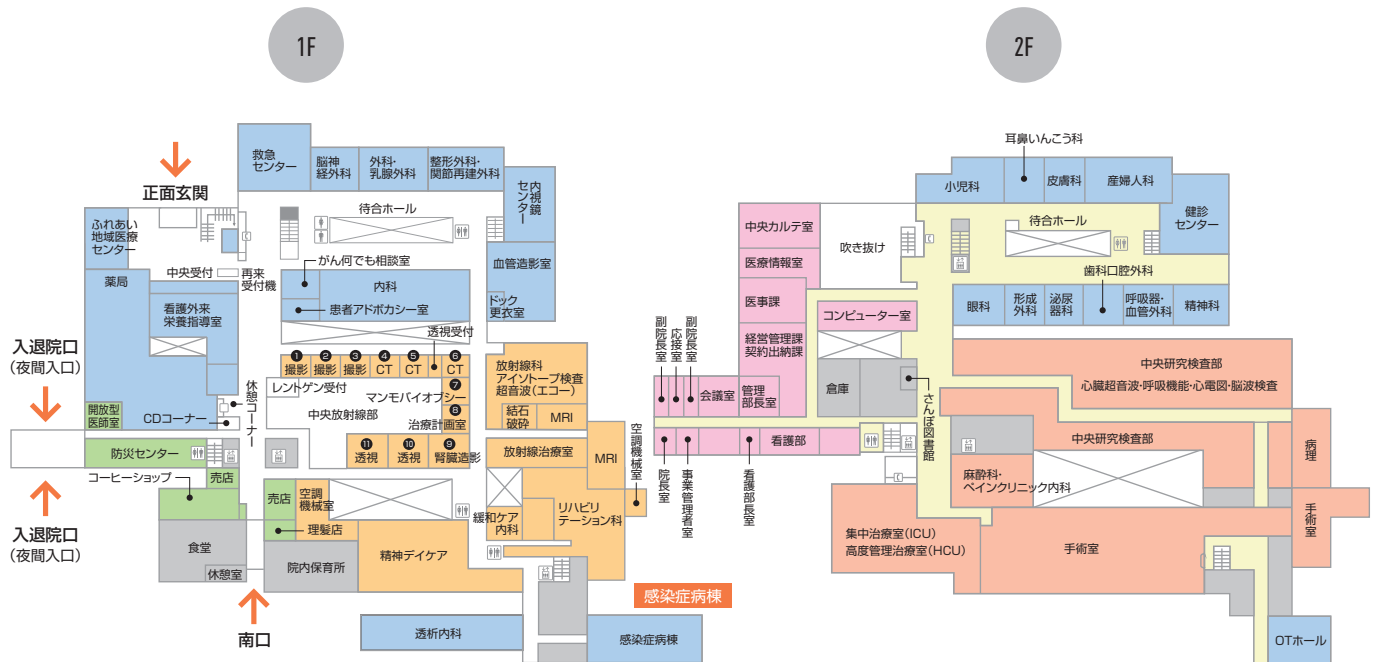
PICK-UP

感染対策コーナー

“新型コロナウイルスを広げない”
新・発熱外来を紹介します

Floor Guide

案内図



外来診療棟		西病棟	東病棟	南病棟
8F		心臓リハビリテーション室	内科	8F
7F		内科	泌尿器科 内科 呼吸器・血管外科	7F
6F		整形外科	整形外科 皮膚科 眼科 耳鼻いんこう科 内科 歯科口腔外科	6F
5F		内科	外科 形成外科	5F
4F		脳神経外科 内科	4階リハビリテーション	精神科
3F	講堂 図書室 医局	産婦人科	小児科 内科 外来治療室	緩和ケア内科
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課 医療情報室	事業管理者室 院長室 副院長室 看護部長室 看護部事務室 電話交換室	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 高度管理治療室 手術部 医療マネジメント室 感染防止対策室	活動療法棟 OTホール
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 術前検査センター 薬局 看護外来 栄養指導室	救急センター 脳神経外科 外科・乳腺外科 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室 がん何でも相談室	レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科	感染症病棟 透析センター
B1F		薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科	B1F



No. 99

2021年1月号

Contents

発行

富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511
富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112
FAX. 076-422-1371
<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構

特集 Special Feature

専門医と高精度装置で より安心な放射線治療を

〔インタビュー〕 放射線治療科部長／今村 朋理 医師

02

治療の現場から見つめる 新体制とトモセラピー

〔インタビュー〕 放射線技術科／今井 勝彦 主幹

放射線技術科治療係／藤井 勇人 係長

放射線技術科治療係／辻内 孝文 技師(医学物理士)

放射線治療科／萩野 唯 主任看護師

05

各診療科医に聞く 放射線治療の有効性

〔インタビュー〕 耳鼻いんこう科・頭頸部外科部長／辻 亮 医師

泌尿器科医長／高瀬 育和 医師

外科主幹・高度管理治療科部長／渡邊 利史 医師

09

豊かな生き方のための 緩和的放射線治療

〔インタビュー〕 緩和ケア内科部長／船木 康二郎 医師

緩和ケア内科主幹・医療相談室部長／加登 大介 医師

12

PICK-UP

感染対策コーナー

“新型コロナウイルスを広げない”
新・発熱外来を紹介します。

〔インタビュー〕 医療局長／家城 恭彦 医師

14

Seminar

富山市民病院公開講座 ふれあいセミナー

16

Information Board

インフォメーション・ボード

17

放射線治療科部長

いまむらともよし
今村 朋理 医師

特集

専門医と高精度装置で より安心な放射線治療を

「手術」などとは別のアプローチで、悪性腫瘍を治療する「放射線治療」。高精度の治療装置を持つ富山市民病院では今年度、専門医が常勤となり、より盤石な体制を整えた。その詳細と、これからについて、聞く。

専門医が常駐することで
手厚くなった放射線治療

Q. まず、放射線治療について教えてください。

今村 がん細胞そのものを死滅させる「根治」から、痛みや出血などの諸症状を和らげる「緩和」まで、体を傷つけることのない、高エネルギーの放射線の照射で行う治療法です。「手術」や「化学療法」を含めた三大標準治療法の一つとされていますが、近年は免疫チェックポイント阻害剤の登場により「免疫療法」も、がんの標準治療として確立し、四大治療法という考え方もあります。放射線治療に用いられる放射線はエネルギーが高く、直接または間接的にがん細胞のDNAを傷つけ、死滅させます。一方でDNAの傷は正常な細胞にも生じますが、正常な細胞はがん細胞と比べ傷の修復力が高いため、多くは機能が回復します。最終的にがん細胞が受ける影響よりも正常な細胞が受ける影響は少なくなり、この差を利用することによって、がんに対する放射線治療が可能となっています。

Q. 今村先生は、富山市民病院の待望の常勤放射線治療専門医と聞きました

今村 私は、富山県立中央病院からの異動で、今年

度4月に富山市民病院の常勤の専門医として着任しました。放射線治療医が常駐となったことで、治療中の患者さんの定期診察が行えるようになり、有害事象への対応や、治療計画の変更などが速やかに行えるようになりました。

Q. 患者さんにとっては安心ですね。

今村 そうですね。あと、常勤医がいることで、いくつかの施設基準の届け出も可能になります。特に、定位放射線治療の施設基準を満たしたことで、今年度から当院でも頭頸部や体幹部の一部の疾患に対し、定位放射線治療を開始しています。

Q. 放射線治療専門医の常駐はまだ珍しいと聞きました。

今村 放射線治療専門医は全国的に見てもまだまだ少ないですが、一昔前に比べると富山県内でも着実に増えつつあり、より多くの患者さんが安心して放射線治療を受けることができる体制が整いつつありますね。

まだまだ知られていない 放射線治療のメリット

Q. 放射線治療のニーズは高まっているのですか。

今村 そう言いたいところですが、学会の統計を見る限り、患者さんは思うように増えていません。

新規の悪性腫瘍について、アメリカでは約50%の患者さんがなんらかの放射線治療を受けているのですが、日本だと約22%と低調です。

これは、「悪いものは取ってしまいたい」という日本人の慎重な気質にもよるものとみていますが、まずは放射線治療自体への認知や理解が、まだまだ足りていないという背景が影響していると思っています。

Q. 富山市民病院の放射線治療の特徴について教えてください。

今村 まずは治療器にトモセラピーを導入していることです。トモセラピーは強度変調性の高い高精度な放射線治療装置で、治療ごとにCTを撮影し、照射部位の位置ずれなどを補正したうえで、360度

の全方向から、放射線の強度を変えつつ回転しながら照射する能力を持っているため、安心安全な治療を行います。

近年の汎用機も撮影と補正を両方行えるようになってきているのですが、根治的治療にのみCTを使い、緩和的治療の場合は用いないことが多いです。しかしながら、トモセラピーは、全プロセスがワンセットなので、汎用機では簡単な位置合わせで行っている緩和的放射線治療でも、より正確な照射を行います。扱う側にとっては手間のかかる流れですが、患者さんにとってはメリットになります。

あと、広範囲に散らばった複数の病変に放射線をしっかりと当てられる精度、これはトモセラピーならではだと思います。

Q. 主にどんな治療に使われますか？

今村 頭の前から足の先まで、あらゆる「がん」に使用できます。根治目的で照射することあれば、痛みや出血などを抑制する緩和的治療でも役立ちますので、放射線治療は全ての診療科との関連が深いです。

Q. 特に重宝される、がんの種類は？

今村 日常不可欠な機能に障害が残るリスクが比較的高い頭頸部がんなどは、手術より放射線治療での



根治を目指すことが望ましいとされています。

また、乳がんに対しては乳房温存療法に活用されることが多いのですが、当院では積極的に寡分割^{かぶんかつ}照射^{しょうしゃ}（少分割照射）という従来よりも照射回数を少なくした治療を採用しています。効果も副作用も変わらず、通院回数を減らせますので、仕事や育児中の方、お年寄りや遠方の方などの負担軽減になっています。

専門医と高精度装置のタッグで 広がるより安全・安心な選択肢

Q. この新体制で、今後取り組みたいことを教えてください。

今村 全ての悪性腫瘍が保険適用となる可能性がありますから、疾患を限定することはないのですが、これだけ高精度の放射線治療装置がありますので、



専門医としてはより一層機能を活かしていきたいと考えています。

今年度から保険適用になった転移性脊椎腫瘍や、オリゴ転移（初期段階の小数個の転移がある状態）への定位放射線治療も積極的に対応していきたいです。

基本的には各診療科の先生や、地域の先生を通して放射線治療の依頼をいただく流れが主となります。そのため、私の今後の取り組みとしては、放射線治療を有効な選択肢として医療関係者の方により広く



認識していただくための活動が必要かなと思っています。

Q. 読者の皆さんへ。

今村 放射線治療は手術と違い、体を切らずに悪性腫瘍を狙い撃ちする、体に負担の少ない治療法です。がんの種類によっては手術療法と放射線治療で、ほとんど治療成績が同じものもありますので、主治医とよく相談し、放射線治療という選択肢を抛り所のひとつにいただければと思います。



放射線技術科治療係

藤井 勇人 係長

放射線技術科治療係

辻内 孝文 技師(医学物理士)

放射線技術科

今井 勝彦 主幹

放射線治療科

萩野 唯 主任看護師

治療の現場から見つめる 新体制とトモセラピー

今村部長を常勤医として迎え、非常勤医2名と併せ、より手厚い治療環境が整った放射線治療科。そこでは診療放射線技師4名、医学物理士1名、看護師1名の現場スタッフも活躍している。高精度な装置での最先端医療を担う精鋭メンバーに、その詳細を聞く。

専従チームだから扱える
高精度な放射線治療装置

Q: まず、トモセラピー治療装置について詳しく教えてください。

今井 トモセラピーは、2016年4月に当院に更
新導入された高精度な放射線治療装置で、すでに多
くの患者さんへの治療が行われています。

外観はCT装置によく似ていて、ドーナツ状のガ
ントリーの中で小型の装置が360度回転し、同時
に寝台も移動することで、らせん状に(放射線の)
照射を行います。コンピュータ制御で線量の強弱を
つけつつ、複雑な形をした病巣にも、正常な組織を
避けながら、正確かつ集中的な照射ができます。ま
た、乳がんや骨転移などの治療に適した固定照射も
可能になっていて、汎用性が高いというの大きな
特徴です。さらに、一般的な汎用装置とは異なり、
寝台を移動させながら照射するため、最大130セ
ンチもの広範囲への同時治療が可能で、散らばった
複数のがんと同時にアプローチすることもできま
す。

この万能性によって、一回の治療時間や治療期間
を縮められるので、患者さんの心的ストレスも軽減
されていると思います。

Q. トモセラピーが高精度と言いつける最大の特徴は？

今井 治療照射とCT撮影が同じ寝台の上で行える、これが、トモセラピーが高精度な放射線治療装置と呼ばれる理由です。

毎回の治療の直前にCT画像を取得し、位置のズレをミリ単位で修正していく画像誘導放射線治療（IGRT）が行えるので、毎回の照射の誤差を最小限に抑えられる、極めて正確な位置照合が実現できます。

少数精鋭で分担することで、より安心安全な治療体制に

Q. トモセラピーを操作する技師の業務について教えてください。

藤井 私たち治療担当技師は、「検証業務」と「治療業務」の二種類を担っています。

まず検証業務は、実際の治療が始まる前の段階で、放射線治療医が作成した治療計画が目的の部位に正しく照射されることを、私たち技師サイドで確認していく業務です。内容としては、ファントム（模擬人体モデル）に対して実際の治療計画線量を照射し、測定機器および専用のフィルムによって得られた結

果から解析を行い、許容誤差の範囲内にあることを確かめていく作業となります。

そして治療業務は、放射線治療医が作成した治療計画に沿って、私たち技師が患者さんに対し、リニアックと呼ばれる直線加速装置を使って、実際に放射線を照射する業務の事を指します。患者さんのポジショニングを行い、装置に搭載されたCTで撮影し、治療計画時に撮影したCT画像との二次元的な位置合わせを行ってから、計画線量の照射を実行する流れとなります。

Q. 医学物理士とはどんな役割なのでしょう？

辻内 私は技師でもあるのですが、医学物理学の専門家としての見地から、適切な放射線治療をサポート

トモセラピーの仕組み



トする「医学物理士」の資格を持っており、市民病院で唯一その役割を担っています。欧米では古くから知られている職種なのですが、日本ではまだまだ認知が浅いのが現状で、近年増えつつある資格取得者（日本人）の多くは、私と同じく、医療機関での

放射線治療に従事しています。

放射線治療技術の進歩は目覚ましく、近年は高精度放射線治療が主流です。そして、この高度な医療を安全かつ確実に行うためには、医学物理士の役割がより重要になってきています。

Q. 医学部物理士の業務について詳しく教えてください。

辻内 放射線治療では、治療計画用CT、治療計画装置、治療装置本体、線量測定機器など多くの装置が使用されるのですが、これらの装置のどれに異常が発生しても治療が正しく行われません。

そんな事態を未然に防止するため、装置の品質管理プログラムを実行し、正しく治療が行われることを保証するのが私たち医学物理士の役目です。

そして、医師が立てた治療計画通りに正しく照射されていることを、様々な線量測定を行うことで保証していきます。つまり、放射線治療装置の品質管理がメインの業務となりますね。

Q. 品質管理の流れを詳しく教えてください。

辻内 大きく分けると、内部的取り組みと外部的取り組みに分かれます。

まず内部での取り組みは、装置の品質管理プログラムを確実に実行することで、当院では毎日、月一回、年一回



の間隔で定期実施しています。これらのプログラムを欠かさずに実施しておかないと、患者さんにとって大事な治療を、確実かつ安全に提供することが出来なくなります。私たち医学物理士は、この品質管理プログラムの結果を評価し、必要に応じて再測定を行ったり、装置の調整をメーカーに依頼したりすることで、治療の精度維持の役割を果たしています。

また、組織的な管理体制の強化を行うため、年一回の頻度で放射線治療品質管理委員会も開催しています。これはその年の臨床業務が円滑に進められたかどうかを評価し、装置等の品質管理の問題点について検討・改善することを目的に行います。病院長を筆頭に、各診療科の先生を委員に任命し、第三者の視点からの意見を取り入れることで、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを回し、業務改善に繋げる機会を設けています。

そして外部での取り組みについてですが、院内での品質管理プログラムだけでなく、客観的な第三者機関による出力線量評価も実施します。線量を測定するためのガラス素子にIGY（グレイ）の放射線を照射し、その素子を第三者評価機関に郵送し、解析を行ってもらって、治療装置から出力された放射線が許容範囲内かを年に一回、確認しています。

Q・専従看護師の役割を教えてください。

萩野 私は放射線科看護師として3年、放射線治療の診察や治療中の看護業務にローテーションで携わってきました。今年の4月から前任者より引き継ぎ、専従看護師となりました。専従看護師として、放射線治療に関する専門的知識をわかりやすく説明することにより、患者さんの不安の軽減に努めています。放射線治療は平日毎日、同じ部位に治療を行

います。長期の治療となる場合もあり、身体的・精神的なケアが必要です。治療中は副作用である有害事象の観察や対応、生活スタイルを把握し、個性を尊重したセルフケアの指導を行うことで治療完遂できるようサポートしています。専従看護師となり、より近い距離感で患者さんと関われるようになったことが一番の変化です。

患者さんに寄り添う 徹底されたプロ意識

Q・この万全の体制が医療安全に繋がっていくわけですね。

藤井 私たちが医療安全の観点で最も心掛けていることは、治療業務を進める中でのダブルチェックの徹底です。

一人の患者さんを治療するにあたり、治療装置や電子カルテ、放射線部門システムなど多くの電子機器を使用しているので、日々の治療業務を進める各工程の中で表示される氏名、回数、照射時間などの情報を技師2名で指差し呼称、復唱を欠かさず行うことで、万が一の間違い防止に努めています。

これらの取り組みは決して目新しいことではありませんが、基本の確認作業を忠実に行うことが、患者間違いなどを起こさないための唯一の手段と考え

ます。先に述べた検証業務自体も、医師と技師におけるダブルチェック体制と言えますね。

Q・患者さんとのコミュニケーションも積極的に取っていると聞きました。

萩野 患者さんや家族が不安にならないよう、笑顔と話しやすい雰囲気づくりを大切にしています。放射線治療や病気についてはもちろんですが、時には趣味などプライベートのお話も交えながら患者さんひとりひとりとじっくり丁寧に関わっています。

患者さんから得られた情報を治療医や治療スタッフと情報共有を行い、スタッフ間でのコミュニケーションも大切にしています。また、外来や病棟看護師との連携も行い、放射線治療チーム内の調整役としての役割も大きいと感じています。

Q・少数精鋭だからこそ、チームとしての連携も大事ですね。

今井 チーム医療で最も大切なことは「情報の共有」ですが、それ以上に「何故そうしなければならぬのか？」といった理由を理解することが重要だと思っています。毎日、安全で精度の高い放射線治療を行うためにも、スタッフ間のコミュニケーションを密に行い、お互いに「情報と理由の共有」が図られるよう、努力を重ねています。

各診療科医に聞く 放射線治療の有効性

富山市民病院では万全の放射線治療体制を整えているが、がんの発症部位によって必要なタイミングはそれぞれ。根治から緩和までを高精度に担えるトモセラピーの活用状況について、各診療科医に聞く。

有効性は多岐に渡る

辻 私は「耳鼻いんこう科」で、眼以外の脳から下、鎖骨より上の範囲で腫瘍等を診ています。市民病院では5年目で、現在は「耳鼻いんこう科・頭頸部外科」の部長を務めています。



耳鼻いんこう科・
頭頸部外科部長
辻 亮 医師

高瀬 私は泌尿器科専門医として泌尿器全般に関して診療を行っていますが、市民病院は県指定のがん拠点病院ですので、悪性腫瘍に重きを置いて診療を行っています。泌尿器科一筋で21年、富山市民病院では10年ほど経ちます。



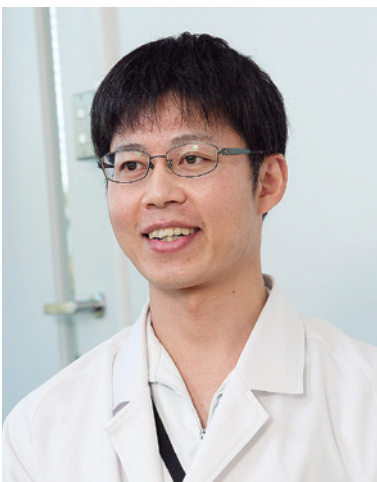
泌尿器科医長
高瀬 育和 医師

渡邊 私は外科医として、消化器疾患、主に大腸疾患を担当しています。手術としては、大腸がんの治療を担当することが多いです。今年度、県立中央病院より異動してきたのですが、環境や体制が整っていて、変化を意識することなく仕事ができています。

Q. 放射線治療を適用するシーンを教えてください

辻 頭頸部に関してはほとんどの悪性腫瘍で活用しています。特に顔面頸部には食べたり呼吸したりするための臓器が集中しており、欠損などがあれば、その後の日常生活に大きな影響を与えますので、形状を保存できる放射線治療は有効な治療だと実感しています。

高瀬 限局性前立腺がん（いわゆる早期がん）に対



外科主幹・高度管理治療科部長
渡邊 利史 医師

しては、根治治療を目的に放射線治療を活用しています。他の腎臓・尿管・膀胱に対しては手術より成績が落ちるので、止血や転移部位に対しての緩和的照射で使います。泌尿器科では、根治から緩和まで、幅広い用途で使っていることになります。

渡邊 大腸がんでは、補助的な治療に活用することが多いです。手術の前段階で腫瘍を小さくして、取り残しなく手術ができるように照射してもらいます。それでも取り残しがある、もしくはその疑いがある場合には、術後に追加で放射線治療をお願いするという形です。

辻 頭頸部に関しては、術前照射は行いません。抗がん剤を併用することもあるのですが、放射線は基本的に根治を目指した治療になります。

適用を見極め、 最も確実な治療を探る

Q. 放射線治療の適用例を教えてください。

辻 のどや顔面に欠損が起きた場合、日常生活はもちろん、見た目にも影響が出てしまいます。放射線治療でも、食べ物を飲み込みづらくなったりすることはありませんが、形状は残ります。抗がん剤と組み合わせで行う放射線治療と手術の成績は同等ですので、頭頸部に関しては放射線治療を選ぶことが多い

ですね。

高瀬 腎、尿管、膀胱についての治療は、現時点で手術に勝るものではなく、手術をできないような人に向けた一時的な緩和目的でしか使っていません。ただ、前立腺に関しては、ほぼ手術と同等の根治性があると報告されています。実際に当院で根治目的で放射線治療を行った患者さんで、特にトモセラピーが導入されてからは、現時点では再発した患者さんはおられません。

渡邊 直腸がんの根本的な治療に関しては、手術がもっとも確実で、優先度も高くなります。放射線治療はあくまでも補助的な役割となるので、必要性は都度、変化しています。

現在の手ごたえと これからの期待

Q. トモセラピーの性能について、実感を教えてください。

辻 病巣に集中して放射線を当てられる精度の高さは有難いですね。頭頸部に近い目や脳をできるだけ避けて、病巣部にきっちり当てることができます。それによって唾液分泌障害も減る、という具体的なメリットもあります。

高瀬 当院での前立腺治療に関しては、金マーカー





という目印を前立腺に挿入して、より正確な位置補正を行い、膀胱や直腸に当たらないように万全の態勢でトモセラピーによる治療を施行しています。なので、放射線治療の合併症として心配される、膀胱や直腸の粘膜障害で問題となるような障害は、今の

ところ当院では発生していません。線量を上げた状態でも放射線を当てられるため、根治性は高く、前立腺に関しては実際、いい成績を挙げられていると思います。

渡邉 隣り合う臓器に影響が少ないのは確かです。

Q. これから期待すること。

辻 治療装置としての性能は、トモセラピーで必要十分なレベルに至っていると思います。これから成果の違いをもたらすとしたら、併用する薬剤との組み合わせによるものですね。新しい薬剤が出てきて、より副作用のリスクが少なく、根治性を上げられるようになればいいなと思っています。

高瀬 私としては、寡分割照射（一回の線量をあげて、照射回数を減らす）で照射回数が減り、患者さんが治療に通う回数が減ればいいかなと思っています。辻先生が言うように、薬剤の組み合わせがよりよいものとなり、どうしても手術が受けられないという方で、今は手術で行えない治療を行えるようになるなど、選択肢がより広がることを期待しています。

渡邉 直腸の領域では、放射線だけではまだ根治が難しい現状ですが、抗がん剤の治療と組み合わせることで、治療効果が高まります。近年、手術の前に放射線の治療と抗がん剤をうまく組み合わせること

で、がんが消えてなくなっていた患者さんの割合が3〜4割に達していたとの報告もあるので、将来的には根治治療の選択肢も増えるのではないかと期待しています。

Q. 読者に一言。

辻 頭頸部がんに関していえば、放射線治療も手術も成績の遜色はありません。信頼できる装置を備えていますので、患者さんは過剰な不安を抱くことなく、治療に望んでいただければと思います。

高瀬 根治度が高く、有害事象の少ないトモセラピーでの治療は、ここまで安全に施行できており、現時点では手術に比べても侵襲度が少ないです。なので地域の先生方も、患者さんの中に放射線治療を希望される方がいらつしゃれば、いつでも紹介して欲しいです。今年度から放射線治療医も常駐しておりますので、違う視点を共有する主治医が実質二人いる体制で、質のいい治療をさせていただきます。

渡邉 根治に向かう中で、手術だけでは太刀打ちできないこともあります。ですが、放射線治療をつまぐ併用することで、患者さんのお困りごとを解決できるかもしれません。最近のご自身で病気に関する下調べをされる方も多くなっていると感じますが、その段階でわからないことがあれば、気軽に相談いただけたらと思います。

豊かな生き方のための 緩和的放射線治療

患者さんと医師が心を通わせ、病氣とうまく付き合いながらの暮らしを模索する「緩和ケア内科」においても、放射線治療は大切な選択肢。主治医と放射線科治療医と強く連携することで広がった「これから」について聞く。

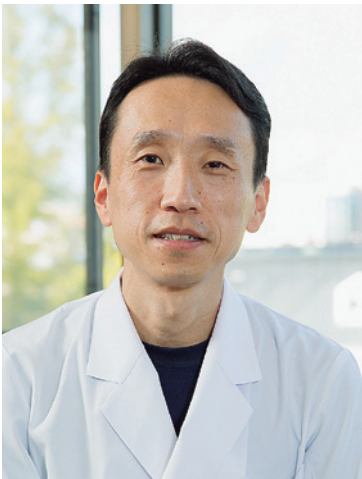
不安を和らげる

自分らしい生き方を探す場所

Q. まずはお二人の自己紹介を。



緩和ケア内科部長
ふなき こうじろう 医師
船木 康二郎



緩和ケア内科主幹
医療相談室部長
かとう だいすけ 医師
加登 大介

船木 富山市民病院に緩和ケア病棟ができた翌年の2010年から緩和ケア専従医として着任している

のですが、もともとは外科医です。金沢大学の外科の医局で10年間従事した後、緩和ケアを専門とした医師となるために研修を受け、当院で緩和ケアを行っています。

加登 私は昨年まで都内の病院に勤務していたのですが、もとは石川県出身で、今年4月に北陸に戻り

ました。キャリアの前半は血液内科医でして、2008年から緩和ケア内科医に。その後、研修で繋がっていた船木先生に相談したことで、富山市民病院とのご縁をいただきました。

Q. 緩和ケアについてわかりやすく教えてください。

船木 患者さんの心や体のつらさを和らげ、その人らしさを尊重する考え方に基づく「緩和ケア」は、主に療養生活の質を上げるお手伝いを目指すものです。進行がんなど病状が進んだ場合だけ受診するものと捉えられがちですが、病氣のどの時期の患者さんにも行う診療です。がんに限定せず、更に体以外の心のことも鑑みて、どうすればその人らしく過ごせるかを軸に、方針を決めていきます。

加登 症状を和らげるための対応が第一ですが、患者さん本人やご家族それぞれに思いや願いがあります。多様性のあるニーズをくみ上げ、なるべく希望に近づけるように支援をする…この積み重ねが、緩和ケアの取り組みとして大事なことだと思っています。

船木 それぞれの患者さんによって、年齢や家族構成、考え方も異なるため、ベストな方針は異なります。そのような病氣の事だけではない患者さんやご家族についての情報や、ゆくゆくの意味決定支援のために、院内外の機関やスタッフと連携を取ること

が大切です。

痛みを和らげる 放射線治療は大切な存在

Q. 放射線治療との関わりについて教えてください。

船木 当科と各診療科との連携による、痛みを取るための緩和的放射線治療は、QOL（生活の質）を下げないための重要な役割を持っています。なので、各疾患の主治医から相談を受けることもあります。こちらから主治医に提案をすることもあります。様々



な緩和ケアを検討していく中で、緩和的放射線治療を行う可能性を考えた時、私たちが放射線治療科に直接聞くなど、より効率的な方法を選んでいきます。実際、「病気が進行してしまったから放射線治療は適用できない」と思い込んでいる患者さんは多く、正しい情報をお伝えする中で、気持ちが変わる方もいます。

加登 放射線は痛みの原因に直接アプローチできる数少ない手段です。骨なら骨の痛みを改善、もしくは悪くさせない治療がピンポイントでできます。基本的に緩和ケア医が行えるのは、痛み止めなど対症的なものになりますから、専門医による放射線治療は、緩和ケア内科にとって頼れる存在です。理学療法や作業療法なども含め、それぞれのケースへの適切な方針を、常に相談しながら決められる当院の環境は、患者さんにとってなにより心強いものです。

より身近になった放射線治療が 緩和ケアの未来に寄り添う

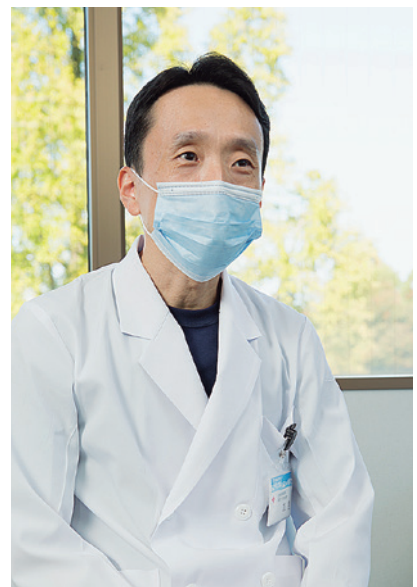
Q. 富山市民病院での今後の緩和ケアと放射線治療

船木 今年度から専門医が常勤になり、突発的な情報も共有でき、即時対応も増えました。一度に狙った複数箇所に少ない回数、侵襲で放射線を当てられる治療装置・トモセプターも、進行がんの患者さん

が多い緩和ケアにとって、大きな存在です。

加登 富山市民病院の緩和ケア部門には経験豊かな多くの専門職が揃い、社会的あるいは経済的に困りの方でも利用していただけるシステムがあります。少なくとも緩和ケアの分野においては、いわゆるがん難民と呼ばれる方を出さないよう、市民病院がセーフティーネットとなってがん患者さんを守っています。私は医療相談室長も兼務しているのですが、患者さんとじっくり話し合いができる、優しい病院だと思っています。

船木 当院は緩和ケアの専門医が2人おり、他の診療科、職種のスタッフとも連携して緩和ケアを行っています。がんに限らず、日常から病気になることがあった時は気軽に相談していただけたらなと思っています。



新型コロナウイルスを広げない 新・発熱外来を紹介します。

発熱外来の設置について

(プレハブ→院内改修)

「富山市民病院」には、新型コロナウイルスの感染が疑われる患者さんを診察する「発熱外来」があります。
新型コロナウイルスを院内に持ち込ませないための専用施設ですが、駐車場内のプレハブからこの冬、ついに院内にお引越し。より安心・安全となる病院の環境について、医療局長の家城先生にお話を聞きました。

Q・発熱外来とは

当院は総合病院ですので、熱が出て受診される方も当然いらっしゃるわけですが、発熱が新型コロナウイルス



医療局長

いえ き やす ひ こ
家城 恭彦 医師

感染症の代表的な症状のひとつでもあることから、万が一感染している患者さんから、ほかの患者さんや職員にうつらないよう、「分けて診る」ために設けた専用外来が「発熱外来」です。病院の正面玄関で検温を行い、発熱が確認された場合は、「発熱外来」で診察を受けていただき、疑わしい場合は新型

コロナの検査も行います。

Q・引越は2回目

新型コロナウイルスへの応急策として、まずは病院の「感染症病棟」で発熱外来を始めました。しかし、患者さんが増える中、患者さんにとっても職員にとってもアクセスが悪いことから、8月上旬に、正面玄関近くの第一駐車場内にプレハブ小屋を建て、一度目の引越しをしました。この頃すでに、「寒くなる頃には院内へ」という方針が決まっていた、プレハブでの診療はあくまで暫定的なものでした。新設備の導入や、関連フロアの改修工事などの準備を行い、救急センター隣の脳神経外科外来の場所に、新しい「発熱外来」を開設します。

Q・新しい発熱外来のポイント

2度目の引越しにより、まず診察室が2室から3室に増えますので、隣接する救急センターの発熱患者さんも受け入れたり、診察室を患者さんの待機場所として利用したりすることもできるようになります。また、全ての診察室に陰圧換気装置を設置しますので、クリーンな環境で安全にかつより効率的に診療できるようになります。

Q・玄関での検温もスムーズに

今までは病院の正面玄関で、非接触式体温計を持った職員が検温と問診を行っていましたが、サーモカメラを導入したことで、発熱のない方はよりス



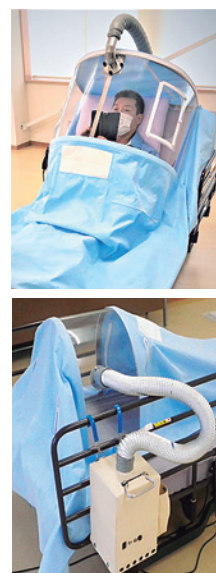
ムーズに院内へお入りいただけるようになりました。また、非接触式では外気温の影響を受けて測定値が不正確になることも確認されていましたので、気温が低くなる冬場に向け、より正確で迅速な検温体制を整えたわけです。

Q・PCR装置もリニューアル

現在のPCR検査は多くを外注に頼っており、結果の判明は、日をまたいでいます。今後、「リアルタイムPCR装置」を導入することで、結果判明時間は約45分に短縮し、処理能力は1日96検体まで増加し、さらにインフルエンザをはじめその他のウイルスにも対応可能となります。

Q・動線の分離もくっきり

発熱の原因を特定するために、行うCTなどの検査では、感染



陰圧クリーンドーム

の有無に関係なく同じ装置を使うため、検査室までの患者さんの院内移動の際、他の患者さんとの接触をいかに避けるかが問題でした。今後、陰圧装置付きの車いすやストレッチャーを導入することで、より安全な移動が可能になります。

これから寒い時期を迎えるにあたり、正面玄関前で待たせずスムーズに入場いただき、暖かい院内で検温と問診を受けていただけるよう、新しい体制も整えています。

Q・家城先生からメッセージ

インフルエンザの流行も心配される寒い季節ですので、発熱でお困りの方はどうぞ当院へお越しください。また地域のクリニックの先生方も、発熱患者の対応でお困りの際は、どうぞお気軽にご相談・ご紹介ください。新しい「発熱外来」で、安心・安全に診療させていただき、少しでも皆様のお役に立てればと思っています。

富山市民病院公開講座



自宅で観ましょう



第29回 ふれあいセミナー

2020.12.14日 ▶ 2021.1.31日

富山市民病院公式YouTubeから配信



YouTube

富山市民病院ホームページ
からURLをお知らせします



ケーブルテレビ富山で放映!!

放映時間等についてはケーブルテレビ富山ホームページをご確認ください

自宅でゆっくりと気になるテーマを観ませんか？

講演

1

「安心で安全なお産をめざして 無痛分娩について知ってみよう」



産婦人科 齋藤 真実 医師
日本産科婦人科学会 産婦人科専門医



講演

2

「知っておきたいこどもの食物アレルギーの話 ～正しい知識が治療の第一歩～」



小児科 和田 拓也 医師
日本小児科学会 小児科専門医
日本アレルギー学会 アレルギー専門医



講演

3

「自宅でできるウイルス感染予防」



感染防止対策室 大田 悟 医師
ICD制度協議会認定 インфекション コントロールドクター



※例年と異なり、新型コロナウイルス感染症対策に配慮して、WEB・テレビ放映での開催とします

〈問い合わせ〉 富山市立富山市民病院 経営管理課 TEL 076-422-1112

Information Board

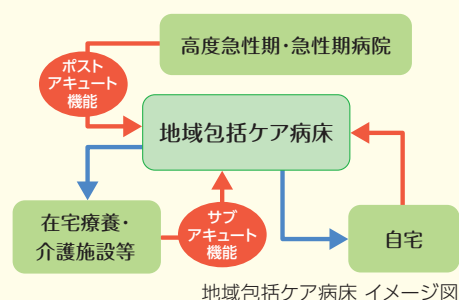
まちなか病院にて 「地域包括ケア病床」を運用しています

富山まちなか病院では、2020年8月1日から、急性期病床50床のうち41床を地域包括ケア病床へ移行し、運用しています。急性増悪した高齢者や在宅療養患者さんを積極的に受け入れるとともに、当院へ入院された方が地域包括ケア病床での治療と回復訓練の後、再び住み慣れた地域に戻り安心して生活を送ることができるよう、病院スタッフ一丸となって取り組んでいます。

01 TOPICS

● 地域包括ケア病床とは？

急性期を経過し、病状が安定した方に対して医師をはじめ看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー等が協力し、在宅や介護施設への復帰に向けた医療や支援を行う病床機能です。



情報発信の多様化に取り組んでいます！

■ ふれあい健康講座のテレビ放映開始

まちなか総合ケアセンター（総曲輪）にて、市民病院・まちなか病院のスタッフが病気の予防やお薬情報などをわかりやすくお伝えする、「ふれあい健康講座」を開催しています。この「ふれあい健康講座」がケーブルテレビ富山で、放映されることになりました。



放映スケジュール

ケーブルテレビ富山のホームページをチェックしてください。
月毎に、一つの講座を一定期間繰り返し放映します。

■ 病院公式Facebookでも多彩な情報を発信しています！

院内の取り組みやイベント案内等、患者さんご家族、地域の皆様にお伝えしたい医療・看護、健康に関する情報を発信しています。

- Facebook から「富山市立富山市民病院」で検索、もしくは当院ホームページのトップ画面から確認いただくことができます。是非ご覧ください。

02 TOPICS

ふれあい健康講座

申し込み・参加費は不要です。まちなか総合ケアセンターへ直接お越しください。

●開催時間／各回13:30～(30分程度) ●会場／まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)

※マスクの着用をお願いします。 ※来場多数の場合、参加できないことがあります。

※新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、講座を中止する可能性があります。

1 JANUARY	2 FEBRUARY	3 MARCH
4月 がん何でも相談室って どんなところ	1月 レントゲン検査の種類	1月 がんと上手に付き合う方法
5火 流行りの感染症	2火 腎臓を守ろう	2火 インフルエンザにかからない! うつさないための感染対策
6水 心臓と肺の動きと運動療法	3水 転ばないための体力づくり やってみようロコモ体操	3水 糖尿病は万病のもと! ～糖尿病の合併症ってなーに?～
7木 糖尿病予防のために ～あなたができること みつめませんか～	4木 高血糖が危ない ～血糖値ってなぜあがるの? HbA1c～	4木 はじめよう! 乳がんのセルフチェック
12火 こどもの発熱 ～家庭でのケアと救急受診の目安～	8月 すい炎について	8月 脳卒中について
13水 日常のスキンケア ①手荒れ	9火 一次救命処置について	9火 糖尿病について～検査の話～
14木 ノロウイルスのお話	10水 日常スキンケア ②ボディ	10水 日常のスキンケア ③オムツ(失禁パッド)まわり
18月 誤嚥性肺炎について	15月 富山まちなか病院の臨床検査室 ～あんな事もこんな事も やっています～	11木 災害対策 赤ちゃんの命を守る!!
19火 こどものお薬の飲ませ方・使い方	16火 知っておきたいお薬の話	15月 オーラルフレイルについて ～体のおとろえは口から始まる～
20水 求められる祖父母力!! 沐浴・衣類・抱き癖・スキンケアなど	17水 肺炎予防は食事から ～食事の工夫で誤嚥を防ぐ～	16火 こどもの障害(事故)予防
21木 救急受診ハンドブック	18木 乳がん検診をうけましょう	17水 肩こりについて知ろう
25月 MRIとCTどちらがうの	22月 お家に帰ろう	18木 お薬について～飲み方を中心に～
26火 気をつけたい高齢者の食事	24水 抗がん剤治療のお話	22月 エコノミー症候群について
27水 緩和ケアはお家でもできますよ	25木 認知症の人の見えている 世界って?	23火 フットケア ～足からの健康～
28木 認知症になったらどうするの?		24水 身近な人ががんになったら家族もつらいよ
		25木 地域で見守る認知症
		29月 白内障について
		30火 骨粗しょう症について
		31水 今日からできる、減塩の食事

※講座内容は変更になる場合がございます。

The Idea of the Toyama City Hospital

富山市民病院の基本理念

使命 MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します。

価値観 VALUE

我々が何を大切にしていけるかのキーワード

- 信頼 安全・安心、満足、透明性
- 思いやり やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- 良質 技術、知識、向上心、科学的
- つながり 連携、チームワーク、わかりやすさ
- 俊敏 迅速、効率的、的確

展望 VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン[きよら] / No.99: 2021年1月号

発行 富山市立富山市民病院 広報委員会

〒939-8511 富山市今泉北部町2-1

TEL. 076-422-1112 FAX. 076-422-1371

<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構